

第4号

2024
10.25発行

所報 いぶり

胆振教育研究所

> CONTENTS

- ▶ 研究委託校・実践校の紹介
- ▶ 冬季研修講座について

- ▶ 今年度の研究について

研究委託校・実践校の紹介

洞爺湖町立虻田小学校

洞爺湖町立虻田小学校

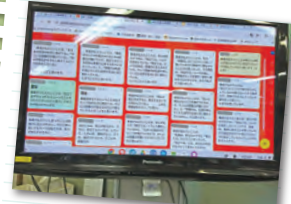
公開研究会 11月26日(火)

虻田小学校は、研究主題を「言葉で思いを伝え合い『生きる力』を身に付ける子の育成～『読むこと』に焦点をあてた学習指導要領の確実な定着をめざして～」と設定し、国語科の研究を行っています。今年度の重点は、「アウトプット」を意識した授業づくりです。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、話す・書く・動くといったアウトプットの場面を、ねらいに合わせてどのように効果的に設定していけばよいか授業研究を行っています。3年計画の最後の1年となるので、研究主題の達成を目指し、「チーム虻小」として研修に励んでいます。

言葉で思いを伝え合い、「生きる力」を身に付ける子の育成～「読むこと」に焦点をあてた、学習指導要領の確実な定着をめざして～



5年 国語科
「見立てる」
要旨をタブレットに
入力しているところ



5年 国語科
「見立てる」
Padletに入力された
児童の要旨

壮瞥町立壮瞥中学校

壮瞥町立壮瞥中学校

公開研究会 今年度予定なし

本校の研修は、生徒が自ら学ぶ力を身に付けさせるための授業改善～個別最適・協働的な学習活動を通し、確かな学力を身に付ける生徒を目指して～を研究主題としております。令和7年度の小・中学校校舎統合を見据え、小中で研究主題を統一し、目指す生徒像を共有しながら研究・実践を行っております。「個別最適グループ」「協働的な学びグループ」「学びスタイルグループ」の3部会を設定し、課題を焦点化し、課題解決に向けて実践、検証、改善を行っております。

生徒が自ら学んでいく力を身に付けさせるための授業改善～個別最適・協働的な学習活動を通し、確かな学力を身に付ける生徒を目指して～



1年 国語科
「大人になれなかつ
た弟たちに・・・」
初発感想の交流をグ
ループ内で行ってい
るところ



3年 英語科
「記者会見を開こう」
プレゼンテーション
資料作りを個人で行
っているところ

厚真町立厚南中学校

公開研究会 今年度予定なし

本校では、厚真スタイルの活用や各教科で授業改善を行うことで、生徒一人一人が自らの学習に対して課題を持ち、他者と協働し学びを深化させることにより、自らの学びを調整する能力を育むことを目標に3年次計画の2年次を迎えています。

ディスカッション、グループワークなど、生徒が積極的に参加する活動を取り入れ、教師が話す量よりも生徒が話す量を増やすようにします。また、デジタル教材やオンラインツールを利用して、視覚的な学習を促進しています。ICT活用の研究・研修を行っています。

自ら学び、判断し、表現する生徒の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの充実化を目指して～



1年 理科
「白色粉末の区別」
生徒が自ら実験を考えて、白色粉末を区別しているところ



3年 総合的な学習の時間
「修学旅行のまとめ」
デザインツールのCanvaで作成したまとめレポート

登別市立西陵中学校

公開研究会 11月29日(金)

本校では、研究主題「主体的に学びに向かい、自己の力を高める生徒の育成」のもと、それぞれの専門性を生かしながら、協働で同じ目標を目指す“オール西陵の研修”を進めています。めざす生徒像である「自ら考え、自ら判断し、自ら行動する生徒」を具現化するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革、自己調整力の育成に向けた取組を行っています。3年計画の最終である今年度は、日常的な授業交流や主体的な学びの充実化に関わる協議、職員の関心に沿ったテーマ研修、ICT活用技能の向上に重点的に取り組んでいます。

主体的に学びに向かい、自己の力を高める生徒の育成
～学びを実感させる学習過程の工夫と、自立した学習習慣の定着を通して～



1年 総合的な学習の時間
「胆振の自然・文化を学ぶ」
タブレットの共同編集機能を活用し、発表資料を作成しているところ



3年 社会科
「登別市議会見学学習」
市議会を訪問し、公民分野を学ぶ意義を感じ、関心を高めているところ

白老町立虎杖小学校

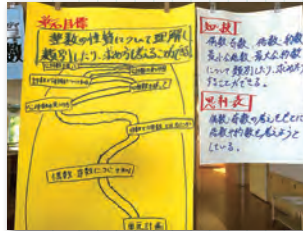
公開研究会 今年度予定なし

本校では、「わかった・できたと感じ、考えを広げられる児童を目指して」という研究主題で、全教科を通して授業改善を行っています。主に、単元の学び全体を山登りに例え、子どもたちが目指すゴールとプロセスを見える化した“ラーニング・マウンテン”を取り入れ、導入段階で学び全体の見通しをもたせ、目標の達成を目指して最後まで頑張る力を培えるようにしています。また、竹浦小学校の児童との合同遠隔学習を学年ごとに行い、意見交流の場を広げることで、子どもたちが普段よりも多様な考えに触れられるようにしています。

わかった・できたと感じ、
考えを広げられる児童を目指して
～児童の実態に応じた学習指導の改善と工夫を通して～



1年 特別の教科 道徳
「二わのことり」
竹浦小学校との合同遠隔学習をしているところ



5年 算数科
「整数」
子どもたちが作成したラーニング・マウンテン

豊浦町立豊浦小学校

公開研究会 今年度予定なし

本校では、上記の主題を設定し、すべての児童が確実に考えや思いを伝えることができるよう、すべての教師が主体的・協働的な学習の視点で日常の授業改革を行っていくことをゴールとしています。そのために、課題解決型スタイルの校内研修で、教員が主体的・協働的に研修参画することで学び合い、PDCAサイクルを機能させながら高め合っています。教師自らが学ぶ意欲をもち、自らを律し、自己責任を果たしながら、「主体的・対話的で深い学び」を実践する研究を目指しています。

理由や根拠を示しながら、自分の考えや思いを
分かりやすく伝えることができる子の育成
～主体的・協働的な学習ができる授業づくりを通して～



3年 特別の教科 道徳
「個性の伸長」
グループごとに付箋を用いて、自分のよさを見つけているところ



4年 総合的な学習の時間
「命の安心・安全ってどんなこと!？」
タブレットで作成したデジタルマップを町役場職員に発表しているところ

令和6年度 胆振教育研究所

今年度の研究について

今年度の「調査課題研究」の内容について紹介します。

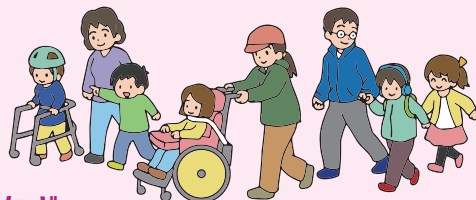
「特別支援教育に関わる各種連携について」

のアンケート調査

9月に苫小牧市、室蘭市を除く胆振管内で授業を担当されている先生方に、アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。特別支援教育に関わる各種連携について調査し、実態や課題などについて把握したいと考えています。現在、実施したアンケートの集計作業を進めています。

<調査課題研究の内容>

- 1 特別な支援が必要と思われる児童生徒の対応において、校内や接続先の学校との連携について
- 2 特別支援教育に関わる研修について
- 3 情緒学級や知的学級の評価について
- 4 自立活動について
- 5 個別の指導計画の活用について
- 6 特別支援教育コーディネーターの業務について など



2月末に調査課題研究紀要を発行する予定です。

令和6年度 胆振教育研究所

冬季研修講座のご案内

講座名：家庭学習の導入・やる気を上げる取り組ませ方（仮）

日時：令和7年1月8日(水) 10:00～

形式：会場とZoomのハイブリッド方式

対象：小・中学校の教員

会場：登別市民会館及びZoom配信

※詳細につきましては、後日送付する要項をご覧ください。



【研修講座 問い合わせ先】

胆振教育研究所 所員（伊達市立伊達中学校 主幹教諭 白井 賢司） TEL0142 - 23 - 3055

